

## 努力の上に花が咲く

落語家の故 <sup>かつら こまんじ</sup>桂 小金治さんは、父親が神棚 <sup>さかき</sup>の 榊 の葉で吹く音色のよさに聞きほれ、「自分も！」と懸命に練習したが、父親のように吹けず投げ出してしまったそうです。

その時、父親から「実行、努力までならみんなする。そこでやめたらドングリの背比べで終わりなんだ。一步抜きん出るには、努力の上に『辛抱』という棒を立てるんだよ。この棒に花が咲くんだ。」と言われたそうです。

また、オリンピックで4大会連続のレスリング金メダリスト <sup>いもようかおひ</sup>の伊調 馨さんは、スピードスケートで金メダリストの <sup>しんせつ</sup>小平 奈緒さんとの対談で、「とことん練習していると、『分かった』と思う時があるけれど、またすぐ分からなくなる。忙しくて練習から少し離れるとゼロに戻ったり、マイナスになる。



やっぱり、分かりかけた時がとことん努力しないといけない時期というか、バーンと成長するか、止まってしまうかの大事な分かれ目なんだと思う。それに、あきらめずに毎日工夫を重ねて努力していると神様がたまにヒントをくれる。だから、失敗を恐れず、勇気を持って努力し続けています。」と。夢や目標に向かって、途中で投げ出さず、自分を信じて我慢強くやり続けることこそ、成功への道なのです。皆さんも小さな目標からでもいい。自分を信じて粘り強く努力する習慣を身につけ、『辛抱』という棒に花を咲かせる瞬間を経験して行ってほしいと思っています。

## 勝利の神様は細部に宿る「コツコツが勝つコツ」

サッカー日本代表を2010年ワールドカップでベスト16に導いた当時監督の岡田武史さんとアーティスティックスイミング(シンクロ)日本代表を2016年リオオリンピックで銅メダルに導いたヘッドコーチの井村雅代さんの対談の一部を紹介します。

あるサッカーチームの練習を岡田さんが見ることになった時、最初グラウンドにコーンを置いてランニングをしていたそうです。そして、その三分の二の選手がコーンの内側を走っていてコーンの外側を真面目に走っている選手はバカにされていたそうです。だから岡田さんは「運というのは、誰にでもどこにでも平等に流れていると思う。それをつかむか、つかみそこねるかだ。勝負なんてすべて運をつかんでも勝てるかどうかわからない、そんな甘い世界ではない。君たちが、たった一回コーンの内側を走ったせいで、あるいは試合で一瞬力を抜いたせいで、運をつかみ損ねて優勝できないかもしれない。勝利の神様は、いつもそんな小さなところまで見ているんだ。」とこのチームに勝つための『モラル』が備わっていないことを伝えたそうです。

井村さんも「たかが走る練習であっても、コーンの外側を走るのが普通で、コーンの内側を走ったら、得をしているのではなく、損をしている。それが何回も積み重なったら、ものすごい差になる。一見つまらないような練習でも、絶対優勝するんだ！」と念じながら手を抜かず全力でやり切って自分のレベルを上げていく。それが運をつかむことにつながっていくのです。そこに気づきコツコツと実践している人に、最後は神様も微笑んでくれるのだと思います。」と話されていました。

やはり、神様はいつも私たち一人一人のことを細部までしっかりと見てくれているのだと思います。何事も『コツコツが勝つコツ』なのですね・・・。